



ほんざわ

やすお

本澤 康雄氏（40歳） 総社市で就農

～目指す農業経営～

（高品質な白桃を普及し、知名度を上げる）

○就農時期：令和5年4月

就農2年目

○就農の型：埼玉県から移住

○品 目：もも露地栽培

○経営面積：210a

○経営参画者：本人

○就農経緯

- ・子供の頃、祖父の米やいちご栽培を手伝い、農業に関心を持つ。
- ・就農に向け、果樹か野菜にするかなど家族（妻等）と相談の結果、果樹（もも）を選択し、就農を決意。

○事前準備

- ・各県のアンテナショップや新・農業人フェアでの情報収集（東京）。
- ・研修前の約1年半の間、土・日を利用し、現地（5地域）を訪問。

○研修内容

- ・体験研修（1ヶ月）：受入農家の下、剪定作業を実施。
- ・実務研修（2年）：受入農家の下、年間の作業（剪定、摘雷等）を受講。

新規就農から 1 ～ 2 年で苦労されたこと

○農地・住宅確保

- ・ 農地は、研修後の段階で農地バンクを介して借入。
- ・ 住宅は、市の紹介で借家を手配。

○資金確保

- ・ 自己資金は、約1,000万円（5年以上前から準備）。
- ・ 融資は、約200万円。

○技術習得

- ・ 体験研修で、基礎的な栽培技術を習得。
- ・ 実務研修では、受入農家から栽培管理や剪定作業等の専門的技術を習得。

○販路確保

- ・ 主にJA出荷。

○地域との関わり方

- ・ 地域とのコミュニケーションとして、幼少期の体験もあり、地域の草刈り、溝掃除、祭りに積極的に参加。
- ・ その時々で地域からの作業依頼に対応。

定着までの取り組み

○技術向上

- ・先輩生産者の作業スピードを目指し、日々努力。
- ・県内のもも生産者の技術検討会での他産地視察などにより技術向上。

○農業経営（コスト削減）

- ・経営規模に応じ設備投資を行い、生産性を向上。
- ・製品化率を上げ、収入を向上。

○機械・施設整備

- ・かん水設備や乗用薬剤散布機（SS）等を導入するとともに、今後、防蛾灯や防風ネットの導入を検討。

○販路拡大

JAを介しての市場出荷（首都圏の百貨店、ネット販売、輸出）。

就農を目指す人へ

- ・農業や田舎暮らしに対する家族の理解が必要。
- ・就農時期を遅らせてでも一定額の自己資金が必要。
- ・夢の実現には、我慢することも必要。



「桃の受粉作業」



「桃のほ場」



「収穫直前の桃」



「地域の方との草刈り作業」